

## 『「主体的・対話的で深い学び」の実現に対する「授業のUD化」の有効性と課題』 (執筆者：京極澄子氏) について

石 塚 謙 二

『「主体的・対話的で深い学び」の実現に対する「授業のUD化」の有効性と課題』（執筆者：京極澄子氏）では、新学習指導要領で示された教科観の転換とユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりの関連を論じており、これまでにはあまり見られなかった観点からの研究と言えよう。

本論文の提言として、これまで京極氏自身が進めてきた授業改善に関する研究の方向が、教科ごとの見方・考え方を身に付け、汎用的に機能する資質・能力を育成することなどを重視した学び、つまり「主体的・対話的で深い学び」に資するとしたことは意義深い。

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善の方向は、どの子も「わかる・できる」を目指すのが、単に指導内容等のレベルを下げるのではなく、指導内容等の明示性を確保しつつ、ユニバーサルデザイン化は目的ではなく手段であることの認識や、教科の本質を見失わないこと、指導内容の質的なレベルは下げないことなどが重要であると考えられる。

教科の本質を見失わないことに関しては、新小学校学習指導要領解説（総則編）には、教科ごとの「見方・考え方」を解説しており、「深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。～（見方・考え方は、）各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。」と記されている。

京極氏の提言や新学習指導要領等の記述を踏まえると、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善の取組は、今日的には、「主体的・対話的で深い学び」につながることを期し、共に学び合うことを大切にしつつ、どの子も「わかる・できる」が実感できるよう授業改善に取り組み、教科の本質（見方・考え方）の深化）と確かな学力（知識だけでなく、問題解決能力等の追求）につながる深い学びの実現を目指すこととし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた有効な考え方・進め方でもあったと考えたい。

一方、新学習指導要領には、各教科等の指導において、「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」と示されていることから、『全員の子供たちに対する「指導の工夫」を行うと同時に、「個別の配慮や支援」を行うことが重要である』と京極氏が述べているように、個々の子どもの障害等の状態を的確に見取り、それらに応じた対応が重要と考えられる。

このようにユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善を進める際には、子どもによっては、一連の活動に困難さを有する場合があることを十分に想定し、その多様性にも的確に応じつつ、どの子どもにも達成感のある取組の実現を目指すことが肝要である。

本論文には、そうした一連の主張が明示されており、今後の学校における授業のあり方に大いに示唆を与えるものと考えられる。